

第 64 回 日本生殖医療学会学術講演会・総会

登録番号:10462

兵庫, 2019.11.7-8

演題名:生殖補助医療におけるウォーキング（ミトコンウォーク）の効果に関する検討

小宮慎之介 井上朋子 河邊麗美 浅井淑子 姫野隆雄 森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

抄録本文:

【目的】不妊治療周期数、患者平均年齢は増加を続けている。治療期間が長期化すると、心身の負担も増加し、治療継続が困難になる症例も生じうる。当院では、心身のケアとして「統合医療」を活用しており、その中でも簡便かつ安全性の高いウォーキングを推奨している。ウォーキングの効果を明らかにするため、本検討を実施した。

【方法】2017年9月から同年12月の間に当院で初回胚移植を実施された220名に書面同意確認後アンケートを配布し、有効回答が得られた175名を検討対象とした。アンケートの項目は1) ミトコンウォークの認知度、2) ウォーキング指導受講歴、3) 頻度、4) 期間とした。着床に対するミトコンウォークの効果を、ロジスティック回帰分析で評価した。胚移植12~14日後の末梢血HCG>25mIU/mLで着床ありと判断した。

【結果】ミトコンウォークを認知していたのは165名(94.3%)で、101名(57.7%)はウォーキング指導を受けていた。ミトコンウォーク頻度中央値は「週1~2回」の45名(25.7%)で期間中央値は「1~3カ月」の29名(16.6%)であった。年齢別では、40歳未満では「週1~2回」、「1~3カ月」が多く、40歳以上になると「週1~2回」、「3~6カ月」となった。着床に関する交絡因子として、胚盤胞移植の有無、移植胚数、年齢、運動頻度、運動期間を挙げ、ロジスティック回帰分析したところ、頻度のオッズ比=1.04 (95%CI : 0.60-1.82、p=0.880)、期間のオッズ比=1.26 (95%CI : 0.73-2.19、p=0.403)と有意な効果を認めなかった。

【考察】当院通院中患者におけるミトコンウォークの認知度は高く、特に40歳以上の高齢群において、より長い運動期間が確認された。今回の検討では、着床に関する有効性を示すことができなかったが、長期化する不妊治療期間の心身を整え、不妊治療継続のモチベーションとなっている可能性が考えられた。今後、心理的側面の評価を交え、再度検討を行う予定である。